

## 「新聞への意見投稿」 平成30年度【1学期】掲載文の紹介

本校では、国語の発展的な学習として文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿し、平成30年度1学期には延べ8編の生徒の意見文が新聞各紙に掲載されました。

自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でもなかなか大変なことですが、掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。ぜひ皆様もご一読いただけましたら幸甚に存じます。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年4月26日（木）掲載

### 悔いのない中学校生活を送る 2年女子

私は、4月から中学2年生になりました。中学に入って、いろいろなことがあり、学び、成長しました。

入学してから友達の輪が広がり、あだ名をつけてもらったり、共通の趣味のことを話せたり、一緒に遊びに行ったり、気づけば小学校の時と同じように楽しく過ごすことができました。

勉強も大切だけれど、友達を作るということは人生の中でとても大切なんだと分かりました。

中学生になると部活や行事で忍耐力を多く求められます。今まで経験したことのないつらさに、何度も部活をやめたくなったこともありましたが、それを乗り越えることができました。この1年間は、私がこれから生きていくうえで大きな節目だったのではないかと思います。

2年生になって期待と不安で緊張している今、上級生を見習いながら「自分の力を出し切れた悔いのない1年だった」と思えるように過ごしていきたいです。

※ 東京新聞「ミラー」 平成30年5月5日（土）掲載

### 挫折乗り越え 夢を追う 2年女子

私はゼロ歳のころから水泳をやっている。本格的に取り組み始めたのはちょうど2年前。それから1年半、ずっと自己ベストを更新し続けてきた。

しかし、だんだん練習に追いつけなくなり、昨年10月、トレーニング中に半月板損傷というけがをしてしまった。けがが治った後、練習が思い通りにいけなくなった。大会でも自己ベストがあまり出なくなった。気が付いたら、水泳が楽しくなくなっていた。

これが「挫折」なんだなと思った。私はずっとプロの水泳選手になることを夢に見ていた。だけどそれは、ただ自分で夢だと思おうとしているだけだったということに気が付いた。

3月にリレーの種目でジュニアオリンピックに出場し、決勝6位だった。初めてのジュニアオリンピックだったので、やはりメダルを取りたかった。悔しくてたまらなかった。

競泳の日本選手権で、出場した4種目を日本新記録で制した池江璃花子選手が以前、テレビでインタビューに答えていたのを見た。「きついときこそが楽しい。逆にあきらめようとは思わない」。

その言葉は、私の心に強く響いた。次の日の練習であきらめそうになったとき、その言葉が浮かんできて頑張ることができた。私はこの言葉を胸に、これからも練習を頑張り続けようと決意した。そこで初めて、これが「夢」だと感じた。以前とは気持ちが全然違う。心から感じていることだと思った。ここからが夢への第一歩だ。このことを忘れずに、夢を追い続けようと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年5月9日（水）掲載

### 頼もしい先輩になりたい 3年男子

中学3年生になった。入学式がついこの間のように感じられる。

私たちが入学して初めて見たのは先輩方の背中だった。その背中には「私たちについて来い」と言わんばかりの頼もしさがあった。先輩の後に続くように過ごした2年間は、あっという間に過ぎ去った。気が付けば自分たちの後ろにはたくさんした後輩たちがいる。

3年生になって、一番頑張りたいことは、学校の中心となって行事を引っ張り、成功へと導くことだ。また、後輩たちに進むべき道を示し、素晴らしい伝統を残すことだと思う。私には、目標としてきた先輩がいた。常に先陣をきって行事を引っ張る先輩の姿は、私の目にとってもかっこよく映った。3年生となった今、2年生の時以上に意識を高め、責任をもって物事に取り組みたい。そして、後輩たちの見本となれるような頼もしい先輩になりたい。

※ 東京新聞「若者の声」 平成30年5月24日（木）掲載

### 特急車両解体 もったいない 3年男子

今春、特急スーパーあずさの車両が引退した。車両は廃車にするため、長野の車両基地に回送された。

帰省の際、解体を待つ車両を撮りに行って、ふと思った。なぜ、この車両は解体されるのか。他の特急車両には、だいたい第二の運用がある。長く使えるものなのだから、廃車にするのはもったいない。

故障したときの代用として残しておくこともできる。一代前のあずさがそうで、増発時や臨時列車に使われた。その車両は、ほぼ同時に引退し、長野の車両基地に並んでいた。

中央線の特急として一つの時代を築き上げてきた車両だけに、もっとたくさん活躍をして、長生きしてほしい。

※ 読売新聞「気流」 平成30年5月30日（水）掲載

### SNS 安全な利用を 3年女子

スマートフォンが普及し、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）利用者が増え、多くの世代の人が楽しんでいる。実際、私も多くのSNSを利用している。あったことのない人とも会話ができ、近況をつぶやけば、「いいね」がもらえる。

しかし、この機能は一見楽しそうであっても、一歩間違えれば大変なことになる。「いいね」がほしくて散財してしまい、取り返しのつかないことになった人もいるという報道もあった。周りの目ばかり気にして、我を忘れてしまうのだろう。

いくら楽しくても、のめり込みすぎると大きな落とし穴に落ちてしまう。便利な世の中になった今、SNSの隠れた恐ろしさを考え、安全に利用できる人こそ、存分に楽しむことができるだろう。

※ 東京新聞「ミラー」 平成30年5月31日（木）掲載

### 後輩との絆 築きたい 2年女子

後輩ができる。小学校のように顔を合わせる程度、という関係ではなく、部活などで何度も会うことになる後輩だ。私には妹も年下のいとこもいるが、どちらも年が離れているうえ、あまり仲が良くない。そのため、3年生の先輩方のように、後輩と良い関係が築けるか不安に思っている。

小学校3年生のころ、縦割り班活動という活動があった。上級生と下級生の縦割りで班をつくり、活動するという取り組みだ。6年生のお姉さんが班長になった。当時の自分は口下手だったので、自分から話しかけることができず、縦割り班活動を苦痛に思っていた。

そんなとき、話しかけてくれたのが班長のお姉さんだった。お姉さんはあまり自分の意見を言い出せない私によく話を振ってくれた。遊びの時間にも私のそばにいて、私にボールを回してくれた。いつしか私は縦割り班活動を待ちわびるようになっていた。

お姉さんはもうとっくに卒業して、すでに連絡も取れなくなっている。それでも先生方のお話で「先輩と呼ばれることになる」「後輩ができる」というフレーズを聞くたびに、お姉さんのことを思い出す。縦割り班活動は、せいぜい年に20回程程度しかなかったが、その短い時間の中で、お姉さんは、確かに私との絆を築いていた。

ならば、後輩という時間が小学校よりも増える中学校でなら、私にも同じことができるのではないか。正直に言って、まだ新しい立場に対する不安はある。それでも、自分から積極的に行動して、後輩とよい関係を築いていこうと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成30年6月3日（日）掲載

### 新鮮な山菜 食べてみては 3年男子

フキノトウに始まり、タラノメやタケノコ、ワラビやフキなど、春には実に数多くの山菜が見られる。

今年もフキノトウをフキみそにしたり、タケノコを炊き込んだりしていただいたが、なぜだかこのごろはどこの店でもあまり見かけなくなってしまった。

私の祖父母は、福島の田舎の方に住んでいる。2人ともまだまだ現役で働いているが、仕事の無い日はよく家庭菜園で野菜を育てたり、山にキノコや山菜を採りに行ったりしている。もちろん本人も食べるのだろうが、量は多くない。余った分を送ってくれるのだ。とても新鮮な上、さまざまな料理に使えるので、いつもおいしくいただいている。

こういった食材は、東京のような都会にいと、だいぶ縁遠い存在になってしまっている。都会のように、科学技術にあふれた便利な世界も悪くはない。けれど、たまには自然が感じられる春の新鮮な山菜を食べてみてはいかがでしょうか。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成30年7月2日（月）掲載

### 「真の運動会」の楽しさ実感 3年男子

運動会でこれまでに感じたことがないくらいの感動と楽しさを味わった。そして運動会は勝ち負けではないと実感した。

これまで運動会ではとにかく勝ちにこだわった。大縄跳びやリレーでも誰かがミスしてもポジティブな声かけもしてやれずにいた。

しかし今年は違った。友達と声をかけ合い、助け合うこと、何ごともポジティブに考え、より上を目指すこと。そして何よりも「悔しい」や「楽しい」という感情を普段の生活以上に感じられるのが、本当の運動会だと実感した。

ミスをしたときは「ドンマイ!」、良いプレーだったときは「ナイス!」と、前向きに考えて声かけをするのがクラス全体の雰囲気をも明るくする一番の秘訣だということも学んだ。

惜しくも4点差で表彰台に上ることはできなかった。しかし優勝以上にクラスの友情、絆が感じられた最高の一日を過ごすことができ、とても幸せだった。